（別記）

２０２６年度赤井川村水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、全水田面積に占める主食用米面積の割合が約 72%となっている。

転作面積の割合は全体の約７％であり、土地利用型作物のそば、飼料作物、南瓜が占める割合が大きい。

減少傾向にあった水張面積を高い割合で維持できているのは、管内に畜産農家があり当初より飼料用米の供給先が確保できたという好条件に恵まれた結果と言える。

不作付地は全体の約 22%を占め、農家の高齢化が進み後継者不足等から想定される農家戸数の減少により、不作付地増加の懸念がある。

また、将来的な担い手への集約を見据えて、農地維持のため景観形成作物作付により不作付地増加へ歯止めをかけていたが、産地交付金による支援が難しくなってきたことから厳しい状況となりつつある。

上記のことから、水張面積の維持と不作付地解消に向けた対策が大きな課題となっている。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域において収益性の高い水田農業経営への転換を図るため、産地交付金を活用しながら、主食用米と比較して面積当たりの所得が高い野菜等の高収益作物の作付拡大を図っているが、水田作に占める同作物の作付は５％と低い状況となっている。

今後、水田をフル活用しながら、多様なニーズに対応した競争力のある農産物の計画的かつ安定的な生産・供給が可能な産地づくりを一層進め、収益性の高い水田農業経営への転換を図るため、高収益作物の導入などを推進する。

高収益作物の導入にあたっては、需要が増加している野菜の安定生産や、消費者ニーズに対応した多様な品目の作付、高品質で安定した生産による産地ブランド力の向上、当地域に適した品種の選定・普及及び栽培技術の改善、販売地域の拡大などの取組を通じて、特色のある産地づくりや、収益力の向上による経営の安定化を進める。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要の減少傾向が続くことが想定される中、農地の排水性の改善や集積等に計画的に取り組むためにも、地域における効率的な土地利用にも配慮しつつ、畑地化の本作化を推進する。畑作物のみを生産し続けている水田が現にあるため、今後も現地調査を行い、状況が続くようであれば、畑地化を推進していく。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

消費者が求める良質で安全安心な米づくりの徹底により、米の主産地としての地位を確立する。また、前年の需要動向や主化業者等の意向を勘案し、米の生産を行う。

（２）非主食用米

ア　飼料用米

主食用米の需要が減少傾向にあり、水張転作の中心作物である飼料用米の推進に取り組んできた。

今後も水張面積の維持として、地域の畜産農家と連携し、飼料用米の生産拡大を目指すとともに、生産コストの低減を図り低価格の飼料用米においても生産が成り立つ方向性を模索していく。

① 普及センターや農協等の関係機関を通じて、土壌条件に合わせた適正な施肥用料及び適正肥料による資材費の低減を図る。

② 低コスト栽培に向けた水稲直播の試験栽培や多収性品種への取組などの試験実施、情報収集及び検証作業等を行いながら、地域の実情に合わせた効率的な低コスト栽培を模索・推進していく。

イ 米粉用米

水張転作の選択肢の一つとして、産地交付金の活用により取り組みを行う。

ウ 新市場開拓用米

水張転作の選択肢の一つとして、産地交付金を活用して取り組みを行う。

エ WCS 用稲

水張転作の選択肢の一つとして、産地交付金の活用により取り組みを行う。

（３）麦、大豆、飼料作物

労働力の確保が困難なことによる遊休農地の拡大を防ぐため、担い手への集約や農作業の受委託による労働力の負担軽減を行い、生産面積の維持拡大を推進する。

また、取組に係るコストの軽減を図るため産地交付金の活用により取り組みを行う。

（４）そば、なたね

労働力の確保が困難なことによる遊休農地の拡大を防ぐため、担い手への集約や農作業の受委託による労働力の負担軽減を行い、生産面積の維持拡大を推進する。

また、取組に係るコストの軽減を図るため産地交付金の活用により取り組みを行う。

（５）地力増進作物

「北海道緑肥作物等栽培利用指針」等に基づく地力増進作物（ひまわり、えん麦、青刈りトウモロコシ等）の作付により、良質な農産物の安定供給、生産コストの低減及び環境負荷の軽減に配慮した合理的な施肥管理・土壌管理を進める。

（６）高収益作物

地域全体の生産性・品質向上及び生産基盤の強化を図るため、効率的かつ安定的な経営を目指す担い手へ高い収益性と機能性を持つ果菜類と水稲との複合化を推進し、水田農業経営の安定化を図る。

〇高収益作物

アスパラ、ブロッコリー、キャベツ、すいか、メロン、小豆、いんげん（菜豆）、ばれいしょ、花卉（トルコギキョウ）トマト、ミニトマト、ピーマン、ナス、パプリカ、南瓜、スイートコーン

５　作物ごとの作付予定面積等　～　８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり